

の気持ちがついて行かず、まだ二十代の精神年齢から抜けきれない状態です。

三十歳も半ばを過ぎれば、精神的にも、人間的にも確たるものを持たねばと思っいるのですが、日々の生活に追われ振り返る余裕すら持てない現在です。ただ、大切にしていきたいと思うものは、人と人とのふれあい、責任と行動そして、今一度、自分の足もとを見つめ直してこの一年間を有意義に過ごしたいと思

いつでも、どこでも
ベストを尽くす

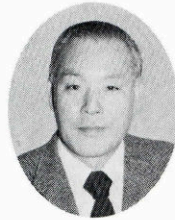


中村 金子喜久野

いつも何となく忙しく、ゆっくり考え、書くようなゆとりがないまま過ごしていますので「私の今年の決意」とりっぱな題をいただいとまどっているところですが、いつでも、どこでも、ベストを尽く

して生きること、そして、一日をおろそかにしない努力の生活は厳しいようでもありますが、平凡な仕事の中にも驚きがありまた喜びも発見出来てうれいしいものです。今年も良い年だったと思えるように頑張りたいと思

これからの人生に
生きがい求めて



上中小野 藤田 智

年を迎えるたびに今年こそは悔いのない一年をと、抱負をいだき決意も新たに出発しますが、結果はいつも「棒ほど願って針ほど叶う」の諺どおり終わってしま

う人生の大きな節目に当る年です。戦争と敗戦そして世界の経済大国に至る激動の時代に奇しくも生れあわせ、人生の上での尊い体験をさせて頂きました。これ等の過去を振り返り、これからの人生を如何に生きがいのある、悔いのないものにするか、じっくり

考えることにしています。虎は一日に千里を行き千里を戻ると言われています。やると決めたこととやらなければならぬことは何ごととも前むきに取り組み、千里を走る虎と共に障害を乗り越え、実年、にふさわしく目的達成のため最善の努力をしたいと思います。



悔いのない人生を

壮年実年は、何とか乗りきり御陰様で早老年期に入り、これから余生をと思

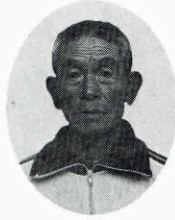


宗頭 亮 弘中隆亮

それから二年、持って生れた運命はどうする事も出来ず「不幸に遭遇するも落胆する

ことなく必ず新進路を求めて運命の展開を計る」を想い出し、人生峠の頂上まで後一踏張り。これからの人間本来の生甲斐だと思

ふれあいを大切に



滝坂 田村豊作

私は、明治三十五年生。今年で、七回目の寅年を迎え

した。七回と言え、八十四歳人生五十年とは昔のこと。今は、平均寿命八十歳と言うすばらしい世界一番の長寿国となり、誠に嬉しい時代となりました。但しこの内容を考えて見ると明治大正生れの者が長寿していると言え

の若者は、物資は豊富にある世の中で育てられ、身長はのびているが、耐久力がない様に思う。明治時代の人々の様に、長寿が保たれるだろうか

と気使っています。虎は動物の中でも一番強く、他の動物には一足も負けない気性を持っている。私も寅年生れで気性が似たものか負けずぎらいで、今日を迎えました。しかし、九十歳になられた方でも大学講座にも毎回出席される方を見ると、うらやましく思い、よし俺も負けな